

令和7年度 第2回 丹波篠山市環境審議会 会議録

記録：農村環境課

■開催日時

令和7年6月18日（水） 19時00分～20時50分

■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 大会議室

■出席者

委員 12名

事務局 5名

■欠席者

委員 8名（うち3名委任有）

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議事項

(1) 第3次環境基本計画の骨子案について

事務局

（資料1に基づき説明）

会長

どの箇所について重点的に意見が欲しいか。

事務局	重点分野を中心に意見を伺いたい。
A 委員	成果指標 2-1「環境利活用・保全活動の実施主体数」の目標値設定については、高齢化により今後活動が縮小することも考えられる。目標値として 10 件の上乗せを想定しているが、今後の見通しについて説明してほしい。
事務局	協働補助金の活用組織数を増やしていきたいと考えているが、大幅に増加することは想定していないことを踏まえた目標設定としている。
会長	成果指標は、基準がないので判断できないと思う。なぜその成果指標・目標値を設定したのかの根拠がなければ、進捗管理の際に妥当性や改善方法について判断ができず、数字しかない状態となり議論のしようがない。第 3 者視点でも分かるようにしてほしい。
事務局	成果指標 4-3「プラスチックごみ（プラ容器包装・ペットボトル）の資源化率」について、プラスチック一括回収が開始した関係で、名称を変更したい。また、市総合計画の後期計画では、ペットボトルを含めずにプラスチック資源化率を算定するかもしれない。次回計画案には反映できる予定である。
会長	重点分野と目指すまちの姿、基本方針との関係性が分かりにくい。計画は、どのような柱で構成されているか。
事務局	<p>関係性を説明する図としては、P.32 の図が分かりやすい。第 2 次計画で目指すまちの姿を考えた際、何もジャンルが無ければ表現しにくいことから、重点分野ごとにまちの姿を 2 つ設定し、市民がイメージしやすいものを作った背景がある。この目指すまちの姿を実現するため、行政が事業を作る際の考え方として基本理念があり、事業の活かし方や方向性として基本方針を設けている。</p> <p>基本理念は土台、目指すまちの姿は果実、枝を伸ばすために基本方針があるイメージである。</p>
B 委員	基本方針(i)は重点分野の人財づくり、基本方針(ii)は残る重点分野に関係しているということか。P.50 の図では人財づくり

分野が残る重点分野にまたがって示されている。もう少し位置づけに関して詳しく説明してほしい。

事務局

重点分野全てに基本方針の全てが関係している。これまでの審議会の議論のなかでも、まず人づくりが重要だということだったと思う。全ての事業に関して人づくりの要素を入れて、事業を作っていくという考えである。目指すまちの姿を実行するために事業があり、これを展開していく方向性を表したものが基本方針である。

会長

複雑な部分は、分かりやすく整理してほしい。

C 委員

P.50 の基本方針が2つになった際には、図に割り当てられた施策の位置づけが変わると思う。記載内容が図ごとに異なるため、かえってややこしく感じる。

事務局

共通した分かりやすい図に変更する。

B 委員

リーディングプロジェクトは、重点分野のことか。

事務局

重点分野とは異なるが、第2次計画策定時からあったものである。目指すまちの姿を早期に実現するために優先的、率先的に取り組む施策のことである。

会長

基本方針を4つから2つに減らした理由について、もう少し説明してほしい。基本方針を減らすことは、重要な変更点だと思う。

事務局

削除した理由として、「『共に価値を創り出す仕組み』をつくる」は、価値を定義することが難しかったためであり、基本方針として詳細に書くのではなく、各事業のなかで設定した方がよく、簡略化してもいいところだと判断したためである。また、「『試行錯誤できる仕組み』をつくる」は、事業として行政が取り組む際に、失敗を前提として事業を構築することが実態として難しかったためである。

(2) 第3次環境基本計画のリーディングプロジェクトについて

事務局

(資料1・2に基づき説明)

第2次環境基本計画のリーディングプロジェクトについて、
下記3グループに分かれて意見を出し合った。

《グループ》

A班…4名

B班…4名

C班…4名

各班意見概要は、次のとおり

A班

【エコ・ティーチャー】

- ・エコ・ティーチャーの仕組み自体を委員が分かっていない。まずは冊子を委員に配布してほしい。
- ・地域や自治会でも展開できないか。
- ・講師の数や謝礼、サポート体制に課題がある。
- ・ひょうご環境創造協会でも環境講座が実施されている。
- ・何を知りたいか、教えたいかのマッチングができていない。

B班

【エコ・ティーチャー】

- ・エコ・ティーチャーの講師リストや流れが分からない。
- ・環境審議会委員は講師リストに載ってもいいと思う。
- ・学校以外にも派遣した方がよい。
- ・「ティーチャー」の名前を変えた方がよい。一方で、学校側は「ティーチャー」と名前がついていた方が安心すると思う。

【共創プラットフォーム】【地域デザイン戦略】

- ・同じようなものであるため、まとめてもいいと思う。
- ・プラットフォーム内で情報共有や連携をするだけでは、持続しないと思う。
- ・プロジェクトをマネジメントする人財をつくっていかないと、何も始まらない。
- ・地域に根付いた人財が必要だが、そのために何が必要であるかは分からない。地域おこし協力隊などに来てもらい、体験談などを話してもらうことも方法の一つだと思う。

C 班

【エコ・ティーチャー】

- ・「ティーチャー」という名前は敷居が高い。「はかせ」や「リーダー」という名前でもいいと思う。
- ・親からではなく他人から教えてもらうことが大切だと思う。
- ・一緒に遊んでくれる人がいてもよい。
- ・幼少期から環境について教えてくれる場が必要。
- ・コーディネーターも大切だと思う。
- ・参加者が教える立場になる仕組みがあってもよい。
- ・情報交換の場はあった方がいいと思う。
- ・同じステージで環境について学ぶことが大切だと思う。学校の授業でできないことを、体験・体感することで自分のものになっていくと思う。
- ・「まなびすとバンク」のようなマッチングの仕組みが必要。
- ・講座はもっとたくさんあった方がよい。
- ・需要と供給が合えばもっと効果的になると思う。

4. その他

事務局

- 第3回・第4回会議の日程調整について
6月25日までに回答をお願いします。

5. 閉会